

- C. argillace* Butl. カバイロシマコヤガ 遠敷・池泉(福田)
C. nitens Butl. シマフコヤガ 鬼ヶ谷・小舟渡・池泉(福田)
Oruza mira Butl. マエヘリクルマコヤガ 大野・小舟渡
O. divisa Walk. ヒメクルマコヤガ 鳩ヶ湯・池泉(福田)
O. obliquaria Marumo ハススクルマコヤガ 池泉(福田)
Lophorufa pulcherrima Butl. モモイロツマキリコヤガ 鳩ヶ湯
Perynea subrosea Butl. ウスベニコヤガ 遠敷・野大坪(福田)
P. ruficeps Walk. テンモンシマコヤガ 鳩ヶ湯
Autova tristalis Leech ツマトビコヤガ 遠敷
Porphyrinia ragusana Frey. ツマテンコヤガ 鳩ヶ湯
P. amasina Ever. ベニチラシコヤガ 鳩ヶ湯
Catoblemma obliquisigna Hamp. ハイロコヤガ 池泉(福田)
Ozarba brunnea Leech ウスベニコヤガ 遠敷・池泉(福田)
Naranga aenescens Moor. フタオビコヤガ 遠敷・鳩ヶ湯・池泉(福田)
Anontia bicolora Leech フタイロコヤガ 鳩ヶ湯
Emmelia trabealis Scop. キマダラコヤガ 鳩ヶ湯
Amyna octo Guen. シロテンヒメコヤガ 池泉(福田)
A. stellata Butl. サビイロコヤガ 遠敷・鳩ヶ湯・池泉(福田)
Xanthodes transversa Guen. フタタガリコヤガ 大野(福井昇)
Stenoloba clare Leech シロスシウンモンコヤガ 鳩ヶ湯
S. manlei Leech ウンモンコヤガ 池泉(福田)
S. jankowskii Ober. シロスジコヤガ 鳩ヶ湯
S. confusa Leech アミメコヤガ 遠敷・池泉(福田)

福 井 県 下 に 見 る 野 鳥

福井市立郷土博物館

東 谷

薫

番号	目	科	鳥 名	渡り	繁殖	分布	棲息環境	摘 要
1	えんじやく目	か ら す 科	はしぶとがらす	留	○	多	村	
2			はしほそがらす	留	○	多	村	
3			お な が	留		少	村	
4			ほ し が ら す	留		少	亜	
5			か け す	留	○	少	森	
6		むくどり科	む く ど り	漂	○	多	村	一部留鳥

(研)

番号	目	科	鳥名	渡り	蕃殖	分布	棲息環境	摘要
7			こむくどり	夏		少	村	
8		きんばら科	すずめ	留	○	多	村	
9			にうないすずめ	冬		少	森	
10		あとり科	しめ	冬		少	森	
11			からふとしめ	迷		稀	森	26.11.17採集
12			いかる	漂	○	普	森	
13			おおかわらひわ	冬		普	森	
14			こかわらひわ	留	○	多	村	
15			まひわ	冬		多	森	
16			べにひわ	冬		少	森	
17			べにましこ	冬		少	森	
18			あかうそ	冬		少	森	
19			うそ	冬		普	森	
20			おおましこ	冬		稀	森	
21			いすか	冬		少	森	
22			あとり	冬		多	森	
23			はぎましこ	冬		少	森	
24			みやまほおじろ	冬		少	灌	
25			あおじ	漂		普	灌	
26			のじこ	漂		少	灌	
27			ほおじろ	留	○	多	灌	
28			ほおあか	漂		少	草	
29			こじゆりん	漂		少	草	
30			かしらだか	冬		多	灌	
31			くろじ	冬		少	森	
32		ひばり科	ひばり	漂	○	普	草	
33		せきれい科	たひばり	冬		少	草	
34			びんずい	漂		少	灌	
35			せぐろせきれい	留	○	多	水	
36			きせきれい	漂留	○	多	水	
37		めじろ科	めじろ	漂留	○	多	森	
38		しじゅうがら科	しじゅうがら	留	○	多	森	

番号	目	科	鳥 名	渡り	蕃殖	分布	棲息環境	摘 要
39			や ま が ら	留	○	多	森	
40			こ が ら	留		少	森	
41			ひ が ら	留		普	森	
42			え な が	留	○	普	森	
43			きくいただき	漂		普	森	
44		ごじゆうがら科	ごじゆうがら	漂		少	森	
45		も ず 科	も ず	留	○	普	村	
46			ち ご も ず	夏		少	森	
47			あ か も ず	夏		少	灌	
48		れんじやく科	きれんじやく	冬		少	森	
49			ひれんじやく	冬		少	森	
50		ひよどり科	ひ よ ど り	漂留	○	多	森	
51		さんしょうくい科	さんしょうくい	夏	○	普	森	
52		ひ た き 科	さんこうちよう	夏	○	少	森	
53			こさめびたき	夏	○	普	森	
54			えぞびたき	夏		少	森	
55			さめびたき	夏		少	森	
56			むぎまき	旅		少	森	
57			き び た き	夏		普	森	
58			お お る り	夏	○	普	森	
59		うぐいす科	う ぐ い す	漂	○	普	灌	
60			めぼそむしい	夏		少	亜	
61			せんだりむしい	夏		少	森	
62			や ぶ さ め	夏		普	森	
63			おおよしきり	夏	○	普	水	
64			こよしきり	夏	○	少	草	
65		つぐみ科	とらつぐみ	留	○	少	森	
66			ま み じ ろ	夏		少	森	

(研)

番号	目	科	鳥 名	渡り	蓄殖	分布	棲息環境	摘 要
67			くろつぐみ	夏		少	森	
68			しろはら	冬		多	森	
69			まみちやいじな	冬		普	森	
70			あ か は ら	夏		少	森	
71			はちじょうつぐみ	冬		少	森	
72			つ ぐ み	冬		普	森	
73			いそひよどり	留	○	普	海	
74			の び た き	夏		少	草	
75			るりびたき	漂		少	森	
76			じようびたき	冬		少	村	
77			の ご ま	旅		稀	森	
78			こ ま ど り	夏		少	森	
79			こ る り	夏		少	森	
80		みそさざい科	みそさざい	漂	○	普	森	
81			かわがらす	留	○	普	水	
82		つばめ科	つばめ	夏	○	普	村	
83			こしあかつばめ	夏	○	普	村	
84			いわつばめ	夏		少	村	
85		やいろちよう科	やいろちよう	夏		稀	森	33.6.16 採集
86	あまつばめ目	あまつばめ科	あまつばめ	夏		少	亜	
87	よたか目	よたか科	よたか	夏		普	灌	
88	ぶつぼうそう目	ぶつぼうそう科	ぶつぼうそう	夏	○	稀	森	姿の仏法僧で 仏法僧とはな かない
89	ひすい目	ひすい科	かわせみ	留	○	普	水	
90			あかしょうびん	夏		少	森	
91			やませみ	留	○	少	森	
92	きつつき目	きつつき科	あおげら	留		普	森	
93			あかげら	留		普	森	
94			おおあかげら	留		少	森	
95			こげら	留	○	普	森	
96	ほととぎす目	ほととぎす科	ほととぎす	夏		少	森	
97			かつこう	夏		少	森	
98			つつどり	夏		少	森	
99			じういち	夏		少	森	

(研)

番号	目	科	鳥名	渡り	蕃殖	分布	棲息環境	摘要
100	ふくろう目	ふくろう科	おおこのはづく	留		少	森	
101			このはづく	夏		少	森	声の仏法僧で 仏法僧となく
102			あおばづく	夏	○	少	森	
103			ふくろう	留	○	普	森	
104			とらふづく	留		少	森	35.11. 採集
105			こみみづく	冬		少	森	35.11. 採集
106	わしたか目	わしたか科	はやぶさ	冬		少	草水	
107			ちごはやぶさ	冬		少	灌	
108			ちようげんぼう	冬		少	灌	
109			こちようげんぼう	冬		少	灌	
110			のすり	留	○	少	森	
111			くまたか	留		少	森	
112			おおたか	留		少	森	
113			はいたか	漂		少	森	
114			つみ	漂		少	森	
115			とび	留	○	多	村	
116			おおわし	冬		稀	深山	
117			おじろわし	冬		稀	水	
118			いぬわし	留		少	森	
119			はちくま	夏		少	森	
120			さしば	夏		普	森	
121		みさご科	みさご	漂		少	水海	
122	こうさぎ目	こうのとり科	こうのとり	留	○	少	水	
123		とき科	とき	迷		稀	水	32.1. 採集
124		さぎ科	あおさぎ	夏	○	多	水	
125			ちゆうだいさぎ	夏		少	水	
126			ちゆうさぎ	夏	○	普	水	
127			こさぎ	夏留	○	多	水	
128			あまさぎ	夏		少	水	
129			くろさぎ	漂留		少	海	29.1 月厨で 採集 日本での北限 ?
130			ささごい	夏		少	水	
131			ごいさぎ	留夏	○	多	水	
132			みそごい	夏	○	少	水	

(研)

番号	目	科	鳥名	渡り	蕃殖	分布	棲息環境	摘要
133			よ し ご い	夏		少	水	
134			おおよしごい	夏		少	水	
135	がんかも目	がんかも科	おおはくちよう	冬		少	水	
136			ま が ん	冬		少	水	
137			か り が ね	迷		少	水	
138			さかつらがん	冬		少	水	
139			は く が ん	冬		稀	水	
140			ひ し く い	冬		少	水	
141			おおひしくい	冬		少	水	
142			ま が も	冬留		普	水	
143			か る が も	留	○	多	水	
144			こ が も	冬		普	水	
145			よ し が も	冬		普	水	
146			つくしがも	冬		普	水	
147			ともえがも	冬		少	水	
148			おなががも	冬		少	水	
149			ひどりがも	冬		少	水	
150			はしびろがも	冬		少	水	
151			し ま あ じ	冬		少	水	
152			ほしはじろ	冬		少	水	
153			きんぐろはじろ	冬		少	水	
154			す ず が も	冬		普	水	
155			く ろ が も	冬		普	水	
156			しのりがも	冬		少	水	
157			お し ど り	留冬	○	少	水	
158			かわあいさ	冬		少	水	
159			うみあいさ	冬		少	水	
160	ぜんぼく目	うみう科	か わ う	漂		少	水	
161			う み う	漂		少	海	
162			ひ め う	漂		少	海	
163	か ん び 目	みずなぎとり科	おみずなぎとり	漂		稀	海	30.11 採集
164			せぐろみずなぎとり	漂		稀	海	34.9 採集

番号	目	科	鳥 名	渡り	蕃殖	分布	棲息環境	摘 要
165	あ び 目	かいつぶり科	か い つ ぶ り	留	○	普	水	
166		あ び 科	あ び	冬		普	水	
167	は と 目	は と 科	き じ ば と	留	○	多	村	
168			あ お ば と	漂		少	森	
169	し ぎ 目	し ぎ 科	い そ し ぎ	留		少	水	
170			あおあししぎ	旅		少	水	
171			は ま し ぎ	冬		少	水	
172			や ま し ぎ	漂		少	森	
173			た し ぎ	冬		普	水	
174			お お じ し ぎ	夏		普	草	
175			た ま し ぎ	漂		少	水	
176			だいしやくしぎ	旅		少	水	
177			ほうろくしぎ	旅		少	水	
178			うづらしぎ	旅		少	水	
179		ち どり 科	し ろ ち どり	留		少	草	
180			こ ち どり	留	○	普	水	
181			いかるちどり	留	○	普	水	
182			け り	漂		少	水草	
183			た け り	冬		少	水草	
184	か も め 目	か も め 科	こあじさし	夏		普	水	
185			せぐろかもめ	冬		少	海	
186			か も め	冬		普	海	
187			う み ね こ	漂		普	海	
188	うみすずめ目	うみすずめ科	こうみすすめ	冬		少	海	31.3月採集
189	つ る 目	の が ん 科	の が ん	迷		稀	不	
190		く い な 科	ひ く い な	夏	○	普	水	
191			く い な	夏	○	普	水	
192			ば ん	夏		普	水	
193	じゅんけい目	き じ 科	う づ ら	漂		少	草	
194			き じ	留	○	多	森草	
195			や ま どり	留	○	多	森	
計 20 目 44 科 195 種								

(研)

説 明

- 1 分 類 日 本 鳥 類 図 鑑 に よ る
- 2 参考文献 日本鳥類図鑑 野外鳥類図譜
- 3 「渡り」 (夏)とあるのは夏鳥で春季南方より渡来、本州で蕃殖し秋季南方に去るもの
(留)は留鳥で年間を通じて棲息地の着しい差異のないもの
(冬)は冬鳥で北海道 北で棲殖し秋季本州に渡来翌春北方に去るもの
(漂)は漂鳥季節的に多少棲息地を変えるもの
(旅)は旅鳥で春と秋本土を通過し蕃殖地と越冬地の間を渡り、本土で蕃殖も越冬もしない種類
(迷)は迷鳥で渡りの途中暴風雨に吹き飛ばされたり近似種に混じつて偶然渡来したもので珍種である。
- 4 「蕃殖」 O印のものが蕃殖を確認した種類で、この外確実に蕃殖すると思われるものも相当ある。
- 5 「分布」 目撃した順に(多、普、少、稀)に分類した。
- 6 「棲息環境」 棲息環境を確然と区別することは困難であるが主として一番多く目撃した環境を記載した(村)は村落付近、(森)は森林で4.5米以上の雑木から10米以上の喬木を含む密主疎生林、(灌)は灌木林で高くとも4.5米迄の灌木である。(草)は草原で荒地、開拓地等の草の繁茂する所。(亜)は亜高山で本県では1,400米~1,500米以上の山帯である。
- 7 嶺南方面と海鳥については調査研究が未了の為め一部しか記載出来なかつた。

福井県地方の衛生上有害な動物について (その6)

フィラリヤ症浸淫地方の蚊族調査

福井県衛生研究所 寺 出 俊 定

夏にはつきものの蚊による害は、人畜より吸血して苦痛を与えたり、時には伝染病の媒介者となる事である。

蚊が媒介する人の伝染病には、ウィールスによつて起る日本脳炎、デング熱、黄熱、マラリヤ原虫によつて起る三日熱マラリヤ、四日熱マラリヤ、熱帯熱マラリヤがあることは周知のところであるが、糸状虫によつて起るフィラリア症、(糸状虫症)も蚊によつて媒介される疾病の一つである。